

[災害統計]

平成26年における車両系荷役運搬機械等による死亡災害の発生状況

平成26年に発生したフォークリフト等の車両系荷役運搬機械等に起因する労働災害による死亡者数は30名で、前年の26名に比べ4名(15.4%)の増加となった。

機械の種類別・業種別の死亡者数は表1のとおりである。

機械の種類別では、フォークリフトに起因するものが27名(90.0%)と圧倒的に多く、残りは不整地運搬車の3名(10.0%)となっている。

業種別でみると、製造業の12名(44.4%)が最も多く、次いで道路貨物運送業の8名(29.6%)で、この2業種で約75%

を占めている。

次に、フォークリフトの事故の型別・業種別の死亡者数は表2のとおりである。

「激突され」によるものが11名(40.7%)と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」によるものが6名(22.8%)、「墜落・転落」の5名(18.5%)と続いている。

不整地運搬車については、3件発生しているが、建設業の2件は建築工事業の「激突」によるもの、土木工事業の「はさまれ・巻き込まれ」によるもので、もう1件は林業で「墜落・転落」による事故となっている。

(情報提供：厚生労働省)

表1 車両系荷役運搬機械等の種類別・業種別死亡災害発生状況(平成26年)

(単位：人)

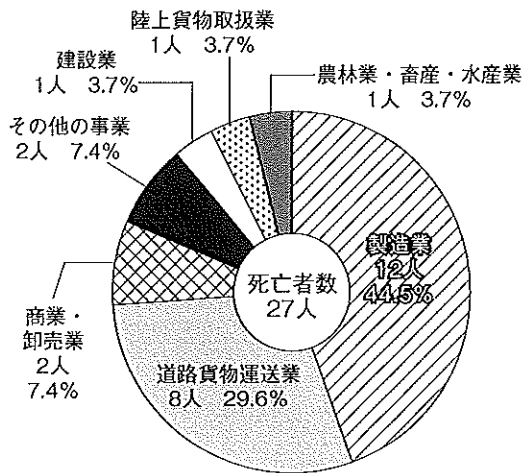
業種 機械の種類	業種									計
	製造業	鉱業	建設業	道路貨物運送業	陸上貨物取扱業	港湾荷役運送業	農林業 畜産 水産業	商業 卸売業	その他の 事業	
フォークリフト	12	0	1	8	1	0	1	2	2	27
ショベルローダー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フォークローダー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ストラドルキャリアー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不整地運搬車	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
構内搬送車	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	0	3	8	1	0	2	2	2	30

表2 フォークリフトによる事故の型別・業種別死亡災害発生状況(平成26年)

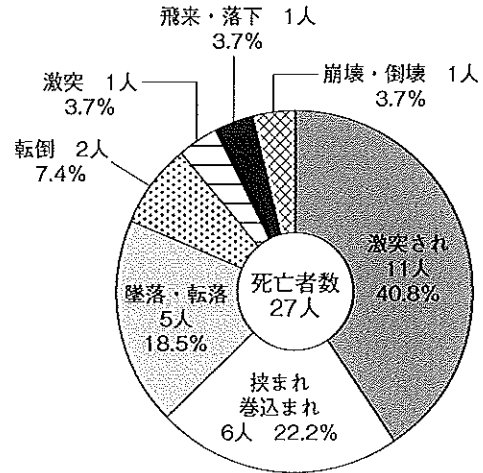
(単位:人)

事故の型	業種									
	製造業	鉱業	建設業	道路貨物 運送業	陸上貨物 取扱業	港湾荷役 運送業	農林業 畜産 水産業	商業 卸売業	その他の 事業	計
墜落・転落	1	0	1	2	1	0	0	0	0	5
転倒	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
激突	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
飛来・落下	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
崩壊・倒壊	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
激突され	4	0	0	4	0	0	1	1	1	11
挟まれ・巻込まれ	3	0	0	2	0	0	0	1	0	6
破裂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	0	1	8	1	0	1	2	2	27

車両系荷役運搬機械(フォークリフト)



グラフ1: 業種別



グラフ2: 事故の型別